令和 4 年度専門領域推進部神経理学療法領域勉強会 活動報告書

日　時：令和 5 年 3 月 16 日（木）　18 時～19 時
形　式：オンライン開催（Zoom）
内　容：講義　『神経科学に基づいた身体失認に対する理学療法アプローチ』
情報提供者：戸谷　泰秀　氏（新庄徳洲会病院　脳卒中認定理学療法士）
参加者：36 名
内容の詳細：

脳血管疾患に伴う高次脳機能障害は、ADL 拡大を図る際の阻害因子となり易く、多種多様な高次脳機能障害の所見が見受けられる。身体失認に対する理学療法アプローチに対してのエビデンスは明確に提示されておらず、介入に難渋することが多い。よって、身体失認に対する理解を深めると共に、参加者の今後の臨床介入のヒントになるようにと意図し、勉強会を企画した。

身体失認に対するエビデンスは明確に確立されていないが、脳機能や発生のメカニズムを理解することで介入の糸口を得ることができる。今回戸谷先生からは身体失認の発生機序と考えられる脳機能についての説明や身体所有感についてフォーカスし、介入の一助となるよう身体失認、身体所有感、運動主体感といった keyword のもと、介入方法に至る思考過程について提示していただいた。身体失認を評価する上での詳細な評価バッテリーを提示し、予測される病態・実際に起きている現象から問題を推論し、実際のアプローチに至るまでの過程や、実際のアプローチ方法について提示していただき、各症例に合わせた治療が重要であることを提示していただいた。またこれらが分かり易くなるように、実際の担当症例の評価から治療までの一連の流れを、患者の示す臨床症状を確認しながら進めていただいた。

身体失認を実際に治療した経験がない会員や、難渋する症例に対しての質問やディスカッションが行われ、参加者の理解が更に深められる機会となった。また新人の方にとっては聞きなれない言葉も多く難しいようではあったが、今後の課題が見つかり、モチベーション向上につながる勉強会となった。オンライン形式の開催ではあるものの、参加者にビデオオンにしていただくことで顔の見える勉強会を実施することができ、有意義な時間となった。

文責：篠田総合病院　小林祐介